

## 第 42 回 宋代の文化

### 1 宋代の学問

- ・唐代までの門閥貴族にかわって、宋代には科举に合格し儒学の教養を身につけた知識人である（ ）が、学問の新しい担い手となった。

#### <新しい儒学>

- ・儒学では、漢～唐代までの（ ）を批判し、（ ）が盛んとなった。

（ ）…北宋の儒学者で、宋学の祖とされる。道家や禅宗の理論を儒学に取り入れ、宇宙の原理や人間の本質を理解しようとした。

程顥と程頤 …兄弟で、ともに北宋の儒学者。宋学を発展させた。

（ ）…南宋の儒学者で、宋学の大成者とされる。

『五経』にかわって『 』を重視した。

※『 』『 』『大学』『中庸』の4書

（ ）と（ ）を唱えて、儒学の秩序を絶対視した。

→彼が宋学を大成したため、宋学を（ ）ともいう。

→朝鮮半島、日本、ベトナムにも影響を与えた。

（ ）…南宋の儒学者で、心の確立と実践を重視して朱子学を批判した。

※明代の陽明学の源流とされる。



朱熹(朱子)

9歳で『孟子』を読破し、病気の父から『論語』を学ぶことで、儒学の知識をみにつけた。なぜ朱子学が、他の東アジア諸国で受け入れられたのかを、考えて欲しい。



陸九淵(陸象山)

朱熹とは同時代の人物であり、手紙で相手を批判しあっていた。しかし学者として、お互いを尊敬しあってもいたらしい。



纏足

女性の足が大きくならないようにする纏足の習慣は、宋代以降の中国で盛んに行われるようになった。右の通常の足と比べると、異常さがわかる。

#### <歴史・文学>

（ ）…王安石と対立した旧法党の中心人物。歴史から大義名分論を説き、（ ）の歴史書である『 』を編纂した。

（ ）…政治家として有名だが、文人としても唐宋八大家のひとりである。

（ ）…政治家・文学者で、古文復興をとらえた。代表作『新唐書』。

（ ）…北宋第一の詩人と言われた。代表作『赤壁の賦』。別名は蘇東坡。

蘇洵と蘇轍 …蘇洵は蘇軾の父、蘇轍は蘇軾の弟で、ともに唐宋八大家である。



司馬光

編年体の歴史書と言えば、『春秋』か『資治通鑑』である。記述は戦国時代から始まり、全354巻の大作となっている。中国史上、最も重要な歴史書のひとつ。



王安石

詩人・文学者としての王安石は、政治的に対立する旧法党のメンバーからも、高く評価されていた。紅一点という表現は、王安石的詩に由来するという説がある。



蘇軾(蘇東坡)

書家・政治家としても有名である。政治的には旧法党に属したが、王安石的改革を全て否定するのではなく、有益なものは残そうとした。

## 2 宋代の美術・宗教・科学・その他

- ・美術では、唐代の色彩豊かな作品と比べて外面的な装飾をそぎおとし、物事の本質に迫ろうとする風潮が特徴とされる。

### <絵画・工芸>

- ( ) …宮廷の( )を中心に、写実的で伝統を重んじ、華やかな絵が多い。北宋の皇帝( )・夏珪・馬遠・梁楷に代表される。
- ( ) …文人や禅僧が中心となり、水墨で淡い色調の絵が多い。  
李公麟・米芾・牧谿などに代表される。

- ・工芸では、( )・( )に代表される高度な陶磁器（宋磁）が、江西省の( )などで生産された。

→海外にも輸出され、中国を代表する美術品となった。



徽宗「桃鳩図」

徽宗は風流天子と呼ばれ、北宋最高の芸術家とされる。ただ生まれる時代が悪すぎた。「桃鳩図」は院体画の傑作であり、実は日本にある。もちろん国宝。



牧谿「観音猿鶴図」

文人画は、主に士大夫階層によって描かれ、日本の水墨画に大きな影響を与えた。明代になって、董其昌によって大成された。



青磁鳳凰耳花生

宋磁の需要が高まった背景には、茶を飲む習慣が広まったことがある。なおガンダムのマ・クベも、北宋の白磁の収集家として有名である(笑)

### <宗教>

- ・仏教では、唐代に生まれた( )や( )が広まり日本へ伝わった。
- ・華北では( )が、道・仏・儒を融合した( )を創始した。  
→金で普及し、同じ道教系で江南を地盤とした正一教（天師道）と対立した。

### <科学・その他>

- ・唐代にはじまった( )が、宋代に普及した。
- ・( )や( )も発明され、ヨーロッパに伝わっていった。
- ・音楽に合わせて歌う( )や、古典演劇の( )が発展した。



張昞端の作。賑わう開封の街を描いた絵巻物で、これは部分である。当時の開封の繁栄や商業活動の様子が描かれており、極めて資料的価値が高い絵画である。

### 訓詁学と宋学の違い

| 訓詁学                                     |                   | 宋学                                          |  |
|-----------------------------------------|-------------------|---------------------------------------------|--|
| 漢・唐                                     | 時代                | 宋以降                                         |  |
| 漢：鄭玄<br>唐：孔穎達<br>『五經正義』                 | おもな<br>学 者<br>著 作 | 周敦頤<br>『太極図説』<br>朱熹<br>『四書集注』               |  |
| ●五經重視<br>●文字の解釈<br>中心<br>●清代の考証<br>学に継承 | 内 容<br>考 方        | ●四書重視<br>●宇宙論・世<br>界観を重視<br>●元・明・清<br>の正統学問 |  |

### 宋学の流れ

